

綾地域における環境教育推進のための ヤマビル生息調査・被害対策協働プロジェクト

〒880-0014
宮崎県宮崎市鶴島2-9-6
みやざきNPOハウス403号
電話:0985-35-7288
E-mail:teruha@miyazaki-catv.ne.jp
http://teruhanomori.com/



ひろげる助成

1年目

調査研究



地面に息を吹きかけてヤマビル調査をする

ヤマビル生息域・生息数
調査地選出

7箇所

調査等の活動に延べ
200人が参加

89人

今年度計画の達成度

80%

活動の全体目標に対する
達成度

40%

課題

シカ・イノシシの個体数の増加に伴いヤマビルの生息エリアが急激に拡大。生物多様性やESDの重要性を体験できる自然豊かなエリアに多くの人が出向く機会を失っている。

目標

地域の組織体制を確立し歩道の環境整備をすること、ヤマビルの生息数が前年度対比で50%減少すること、地域住民のヤマビルに関する理解を深めることを目標とする。

活動内容と成果

ヤマビル生息数やセンサーカメラによる媒介動物の調査を7カ所16回調査した。またヤマビルのDNAを70個体分析し、宿主を調査した。綾地域では調査地すべてで約50%の確率で人が媒介動物であることがわかった。

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

年度当初の予備調査で例年ヤマビルが多いとされてきた地域でわずか2個体しか捕獲できず、原因をつきとめるのに時間を要した。

■ 工夫した点

地元大学研究者や猟師、住民、行政機関等、さまざまな方へのヒアリングや調査協力を得ることができ生息状況の全体的な把握ができた。



また奥山だけでなく隣接する居住区域でも日常生活や農作業中にヤマビルの目撃・吸血被害がおきていることがわかったため、住民の協力を得て被害状況と野生動物との関連を調査することを目的としたアンケート調査を実施し106枚回答を得た。DNA分析の結果と合わせ人の吸血被害対策が重要であることが明らかに。



センサーカメラの設置

今後の展望

環境教育を進めやすい歩道環境の整備を地域住民とともに実施。DNA分析の継続と人が被害に遭わないための意識啓発を実施。ヤマビルの生息域が移動する要因として考えられるシカの調査を実施。